

令和5年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 知識・技能の観点では全学年で全国平均、区平均と比較して平均正答率が上回った。生徒によって個人差の大きい観点であり、習熟度の低い生徒は算数の内容に戻って復習していくなど個々の課題に応じて計算の処理能力を高める必要がある。
- ・ 思考力・判断力・表現力の観点では全学年で全国平均、区平均と比較して平均正答率が上回った。記述式解答の正答率は特に高かった。問題を色々な角度から考え数学的に表現する能力を引き続き高めていきたい。
- ・ 主体的に学習に取り組む態度の観点では全学年で全国平均、区平均と比較して平均正答率が上回った。引き続き、数学的活動を通して、生徒の学習に対する主体性を高めていきたい。

(2) 課題

- ・ 3年間を通して小テスト・単元テストを計画的に実施し、達成度を評価する。
- ・ ESD の観点から、身近な事象や生徒が興味・関心を示す事象を取り上げ、引き続き主体的に学習に取り組む態度を高める授業を実施する。
- ・ 課題を数学的に考え、表現し、伝え合う授業を引き続き展開し、課題を数学的に解決することの重要性を認識させる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	基礎・活用共におおむね目標値より上回っているが、基礎で5問、活用で1問目標値を下回っている。	/	/
第2学年	基礎・活用共におおむね目標値より上回った。基礎で3問目標値を下回っている。	目標値よりおおむね基礎・活用共に上回った。「小数分数の計算」は下回った。	/
第3学年	基礎・活用共におおむね目標値より上回った。基礎で1問、活用で1問目標値を下回っている。	目標値より基礎・活用共に上回った。「正の数・負の数」「比例・反比例」は下回った。	目標値より基礎・活用共に上回った。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「平均・場合の数」「データの活用」が目標値を下回った。	「場合の数を求める図についての記述問題」が目標値を下回った。	目標値より上回った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりおおむね上回った。「比例・反比例のグラフ」は目標値を下回った。	目標値より上回った。	目標値より上回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「平行四辺形になるための条件」が目標値を下回った。	「問題文と式から x と y が何を表すのかを答える問題」が目標値を下回った。	目標値より上回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストや単元テストを実施しながら、何度も問題を解き、反復していく。また、個に応じた指導を目指し、生徒のつまづきをなくすようにしていきたい。	「データの活用」が目標値に達していない。グラフから必要な情報を読み取ることができるよう、SDGs と関連づけながら指導していく。	数学を少しでも「楽しい」「嬉しい」と思えるような授業を目指していきたい。そのために、ゲーム形式で行える授業や、教え合い活動を増やしていきたい。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
演習の時間を多くとり力を定着させる。単なる公式の丸暗記にならないよう定理を丁寧に説明しながら授業を進める。	話し合い活動から自分達で導くなどの主体的・対話的で深い学びを目指した授業を実践している。今後も継続する。	学習したことの定着率を高めるため、レポートや単元テストを実施したことで生徒のモチベーションが上がった。今後も継続する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストなどで反復演習を行い、定着率を高め、自信につなげられるように指導していく。	授業中の対話を通して、式や文字が表す内容を考えさせる。自分の言葉で伝えることを意識した授業を行う。	定期的に小テスト・単元テストを実施したことで生徒のモチベーションにつながった。今後も継続する。